



2022年
2月28日
発行

日本山岳会

「高尾の森」通信

—小下沢風景林の森づくり活動—

会員数：167名
(2022年1月末現在)



小仏峠付近から 2022.1.5 撮影

2022年、年明けから新型コロナウイルス感染者は急増し第6波に突入。

感染者数は過去最高記録の日々が続きましたが、

この4月には7年ぶりの植樹祭が行われます。

一日も早く平穏な日常を取り戻すことを願います。



カマツカ

材が緻密で堅く丈夫なことから、
鎌などの農具の柄に使われ「カマツカ」と名付けられた。
秋には1センチ弱の赤い実をつけ食べることができる。
小さなリンゴのようで甘酸っぱい。

絵：横川信由

<http://JACtakao.net>

森林・林業基本計画の改正について

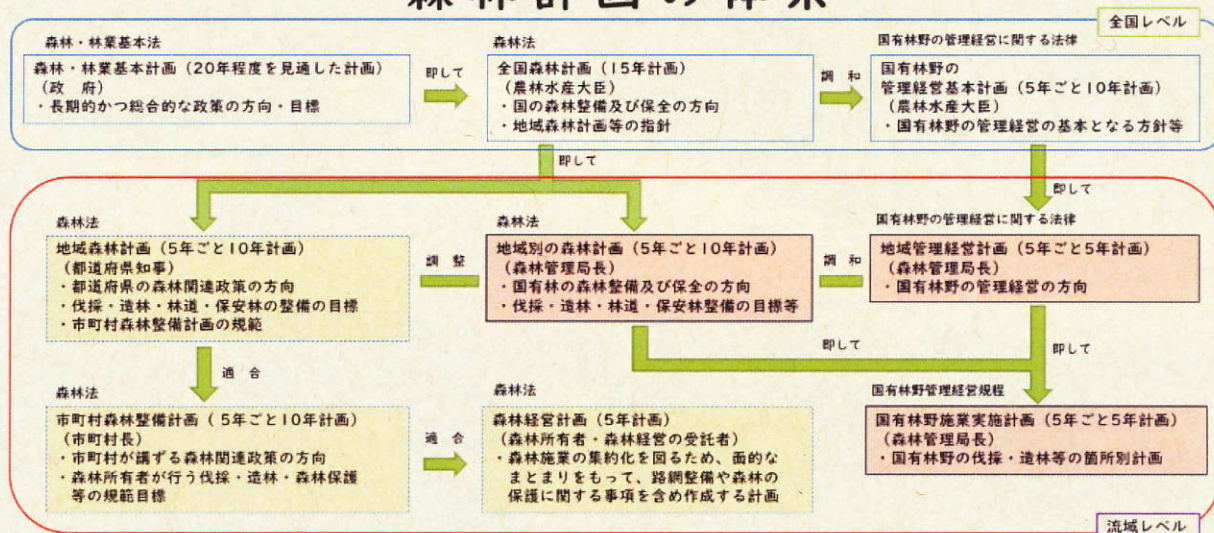
東京神奈川森林管理署 総括森林整備官
飯田拓郎

令和3年6月に新たな「森林・林業基本計画」が閣議決定されました。
今回はこの「森林・林業基本計画」の概要についてご説明をいたします。

「森林・林業基本計画」とは

森林・林業基本計画とは、森林・林業基本法に基づき、国の森林・林業施策の基本的な方針等を定めるもので、森林・林業をめぐる情勢の変化等を踏まえ、おおむね5年ごとに変更することとされています。

森林計画の体系



こちらは森林計画の体系を図示化したものになります。

森林・林業基本計画は、民有林や国有林の森林計画の指針等となる「全国森林計画」等を定めるための方向・目標となっています。また、計画検討前と計画案作成後には広く国民のみなさまから意見を募集し、それを踏まえて林政審議会において議論が重ねられました。

新基本計画について

前基本計画においては、「人工林が利用期を迎えたこと等を背景に、林業・木材産業の「成長産業化」を推進」という目標から、新基本計画においては、「森林を適正に管理して、林業・木材産業の持続性を高めながら成長発展させることで、2050 カーボンニュートラルも見すえた豊かな社会経済を実現」を目標とし、【森林・林業・木材産業による「グリーン成長」】を施策の方向としています。

以下のように5つのポイントがまとめられています。

【森林資源の適正な管理・利用】

森林資源の循環利用を進めつつ、多様で健全な姿へ誘導するため、再造林や複層林化を推進。併せて天然生林の保全管理や国土強靱化、森林吸収源確保に向けた取り組みを加速。

- 適正な伐採と再造林の確保（林業適地）
- 針広混交林等の森林づくり（上記以外）
- 森林整備・治山対策による国土強靱化
- 間伐、再造林による森林吸収量の確保強化



【「新しい林業」に向けた取組の展開】

伐採から再造林・保育に至る収支のプラス転換を可能とする「新しい林業」を展開。また、「長期にわたる持続的な経営」を実現。

- イノベーションで、伐採 → 再造林・保育の収支をプラス転換（エリートツリー、自動操作機械等）
- 林業従事者の所得と労働安全の向上
- 長期・持続的な林業経営体の育成



【都市等における「第2の森林」づくり】

中高層建築物や非住宅分野等での新たな木材需要の獲得を目指す。木材を利用することで、都市に炭素を貯蔵し温暖化防止に寄与。

- 都市・非住宅分野等への木材利用
- 耐火部材や CLT 等の利用、仕様設計の標準化
- 木材製品の輸出促進、バイオマスの熱電利用



この他、横断的に推進すべき施策としては、

- デジタル化（森林クラウドの導入、木材の ICT 生産流通管理、林業 DX 等）
 - 新型コロナ対応（需要急減時の生産調整・造林への振替、在宅勤務に対応したリフォーム需要の取り込み）
 - 東日本大震災からの復興・創生、「みどりの食料システム戦略」と調和
- としています。

全国森林計画の変更

新たな森林・林業基本計画を踏まえ、全国森林計画についても変更が行われます。全国森林計画とは、森林の整備及び保全の目標・伐採等の計画量・施業の基準等を示すもので、都道府県知事がたてる地域森林計画等の指針として、森林・林業基本計画に即して5年ごと15年を1期としてたてるものです。

森林・林業基本計画の詳細については、林野庁ホームページに掲載されております。参考資料や関係団体等からのご意見など大変参考になるものと思いますので、ご興味がありましたら是非ご参照いただければと思います。

【林野庁 森林・林業基本計画】<https://www.rinya.maff.go.jp/j/kikaku/plan/>

【木材産業の国際 + 地場競争力の強化】

外材等に対抗できる国産材製品の供給体制を整備し、国際競争力を向上。中小地場工場等は多様なニーズに応える多品目製品の供給により、地場競争力を向上。

- JAS 乾燥材等の低コスト供給（大規模）
- 高単価な板材など多品目生産（中小地場）
- 生活分野での木材利用（広葉樹家具など）



【新たな山村価値の創造】

山村地域において森林サービス産業を育成し、関係人口の拡大を目指す。また、集落維持のため、農林地の管理・利用など協働活動を促進。

- 地域資源の活用（農林複合・きのこ等）
- 集落の維持活性化（里山管理等の協働活動）
- 森林サービス産業の推進、関係人口の拡大



また、国有林野の管理経営に関する施策としては、国民の財産である国有林野を、より開かれた「国民の森林」として管理経営していくためには森林・林業や木材利用に対する国民の理解が不可欠であることから、多様な意見を把握すべく対話型の取組、多様な主体と連携した国民参加の森づくりの推進、国有林野の保健・文化・教育・観光的利用、国立公園等と連携した取組を推進し、保護と利用の両立を図ることとしています。

今回の変更により、

- 木材等生産機能維持増進森林における再造林の促進
- 林地の保全に留意した適切な伐採・搬出の確保
- 走行車両の大型化や豪雨の増加傾向等を踏まえた林道整備

の記述を追加し、伐採立木材積や造林面積等の各種計画量について、新たな森林・林業基本計画に即した見直しを実施することとしています。



雨の中での植樹祭準備 (2012 年)



2014 年 植樹祭



代表 吉川正幸

高尾の森づくり20年を振り返って

正月から毎日、新型コロナウイルス感染者数を見ては、ため息をつくばかりでした。長くつづく感染症は、多くの人の健康を奪い希望を打ち砕いています。2月20日に予定していた「20周年を祝う会」については、100名を超える皆様からご出席の申し込みをいただき、「楽しみにしている」とのお声もいただきました。しかし、2月に入ってもコロナ感染症の猛威は収まらず、やむを得ず開催を中止することにしました。

また、当会を知る有識者の方々からは、「20年も続けてきた森づくりの会は貴重であり、記念の会を開催することは、当事者である私たちが考えている以上に社会的な意義がある。延期しても開催すべきである。」との厳しくも暖かいお言葉をいただきました。しかし、すでに開催を2回も延期している上に、コロナ禍の終わりの見通しも立たないので延期も断念することにしました。

記念の行事にご協力いただいた皆様を、本来ならば「20周年を祝う会」の席上でご紹介してお礼を述べるべきでしたが、この紙面を借りてご紹介させていただきます。

2021年12月には「20年の歩み」を刊行することができました。この20周年の記念誌は、100名近い方々からのご寄稿と茂出木協子さんから写真提供をいただいて、白井聰一さん、松川征夫さんの1年間のご苦勞によって編纂されました。この本には、20年間に18,812本の

広葉樹の植樹を行ってきた会員の汗と笑顔の思い出が詰まっています。会の創設からの歩みを振り返る素晴らしい記念誌の刊行に、ご協力いただいた皆様には厚くお礼申し上げます。

祝う会での引き出物として、記念品の製作を「ものづくり班」にお願いしておりましたが、この会報と同時にお届けすることになりました。記念の箸と箸置きは間伐材のヒノキを材料にして、ものづくり班と小屋管理班の皆様が懸命に製作され、真夏の暑い頃から真冬までかかりました。それでも終わらず、宮本正彦さんは箸をご自宅まで持ち帰り重ね塗りを続けられていました。記念品を作られた会員全部のお名前をご紹介する紙面が無く申しわけありませんが、多くの会員によって丹精を込めて制作された箸と箸置には大変な価値がありますので、大切に使用していただくようお願いします。また、法人会員様への感謝状を入れるヒノキの額づくりもご苦勞されて製作されました。改めてお礼を申し上げます。

さらに、祝う会のために、会の20年の歩みの映像集を、召田俊雄さんが大変な時間をかけて、過去の写真などから制作されました。この貴重な映像集については、皆様に何らかの形で見ていただくことを予定しています。

「20周年を祝う会」の開催はできませんでしたが、当会の20年を振り返り創設の理念を思い起こすよい機会となりました。改めて20周年を祝うために、ご協力をいただいた皆様に感謝を申し上げます。

高尾の森づくりの会

20周年おめでとうございます

日本山岳会 会長 古野淳

脱炭素は待ったなしの人類共通の課題ですが、地球の歴史上、私たちホモ・サピエンスは最も凶悪で深刻な環境破壊を続けて来た生物でもあります。産業革命以降のCO₂濃度上昇だけでなく、森林の伐採や野生動物の種を絶やし続けて来た6万年の環境破壊の歴史を知る必要もあらうかと思います。

幕末に富士山に登頂した英国公使ラザフォード・オールコックや、明治の初めに立山や南アルプスに足跡を残した英国外交官アーネスト・サトウは、欧州アルプスほどの高さ、氷河のない山岳景観でありながら、欧州では見られない日本の森林の美しさを欧州に紹介し、こよなく愛しました。山岳会設立の恩人であるウォルター・ウェストンは、欧州アルプスと比較して、「日本アルプスに鬱蒼たる森林の多いのを、その最も愛すべき特徴。」と書いています。

森林保護の歴史は、小島烏水が1913年（大正2年）

に書いた「上高地風景保護論」で上高地の森林伐採に抗議。これが最初の自然保護運動と思われます。また、南方熊楠が日本山岳会会員の柳田国男にあてた「神社合祀令」による鎮守の森や山林の乱伐を糾弾する「祖国山川森林の荒廃」の書簡を送り『山岳』に掲載。権力との闘争を続け、1918年（大正7年）にこの法令は廃止となりました。「尾瀬ヶ原水力発電ダム計画」が発表されると、尾瀬の植物に詳しい武田久吉（アーネスト・サトウの次男）他多くの日本山岳会会員が自然破壊の抗議活動に参加し1949年（昭和24年）「尾瀬保存期成同盟」が発足。翌年、開発計画は中止となりました。このとき国会等に提出した請願文にはじめて「自然保護」という考え方が活字となりました。

1957年（昭和32年）には林野庁が「国有林生産力増強計画」を発表。自然林を人工林に変えるという政策に対して、冠松次郎、松方三郎は「我々は大いになすべきことがあるのではないか、ヒマラヤ遠征もいいが、自分の国の山を滅茶苦茶にしておいて何のヒマラヤだということなのだ。我々の会は日本の山岳会なのだから、何としても、この日本の山をちゃんとした山にしておかなければなるまい」と述べています。

高尾の森づくりの会が、日本山岳会の精神を引き継いで、後世に日本の森林の豊かさを残していく活動が今後も盛んになっていくことを祈っております。

20周年記念 箸づくり奮闘記

小木曾裕子



寒い小屋での袋詰め作業

4月の幹事会で箸と箸置のセットが20周年の記念品に決まり、ものづくり・小屋管理班で箸づくりを開始。まず檜の板を短冊状に切り、それを箸の原型となる棒状に切断。次にグラインダーで箸の形に削り、並行して削った箸のニス塗りを進める。乾かしては塗ること3回。その後サンドペーパーで表面処理をしてから、存在感のある28cmの菜箸と23cmの普通サイズの2種類にカットし、カット面にニスを塗り仕上げ完了。材の差による色合いの違いに加え、太さ、丸み、長さなど形が手作りのため微妙に異なるため、苦労して250膳を組み合わせ、最後に手分けして台紙と箸置と合わせて袋にセットして漸く完成しました。

2月の会報と一緒に会員の皆さまにお届けします。どちらのサイズが届くか、お楽しみに。

幹事会報告

（詳細はホームページ会員専用ページ参照ください。）

2022年1月幹事会報告

- 協議事項 1. 鹿柵の助成金の申請について
- 協議事項 2. 1月定例作業日の予定と準備について
- 協議事項 3. 東京都主催のイベントの講師（ガイド）派遣依頼に対する対応

報告事項

- 1. 小下沢（木下沢）林道の復旧の見込み
- 2. 「20周年を祝う会」の準備状況
- 3. 東京神奈川森林管理署訪問の報告
- 4. 会員名簿作成について

2月臨時幹事会報告

- 議案 1. 2月12日の定例作業の中止について
- 議案 2. 2月20日の「20周年を祝う会」の開催断念について

コロナ後の新しい出発 日比野克彦

会としてのSDGs

オミクロン株の感染者が増え続けています。東京都の新型コロナ感染者数は2月5日、2万1千人になりました。2月の定例作業は中止、2月20日に予定されていた20周年記念パーティも取りやめになりました。

2019年10月の19号台風で小下沢林道の崩落、その後の新型コロナウイルス感染防止のための作業の縮小、定例作業の中止と、このところ会の活動にとって不自由なことばかりです。しかしもう少しでコロナ禍は終わるでしょう（楽観的な）。林道の修復にはもう少し時間がかかるようですが。

さて、高尾の森づくりの会は20周年を迎え、コロナが明ければ本来の活動に戻るわけですが、いま私たちは様々な問題を抱えています。

- 活動場所が遠くなり、自分たちで間伐・地拵えしてできる場所がない
 - 会員の高齢化、活動についてゆけない会員の増大
 - 作業面ばかりが強調され会の大きな目標がぼやけてしまっている
- との指摘等々です。

20年前から踏襲されてきた活動スタイルとは、森や会を取り巻く環境が大きく変わってしまっています。いままでの活動をそのままの形で続けるのが難しくなっています。今後、会をどのように進めてゆくのか総会を前に考え、議論すべきだと思います。

20年間に設立当時の会員は60歳から65歳あたりの

人たちです。河西さん・龍さんを中心とした15年間の創設期があり、会員も増加しました。この当時は植樹祭を中心とした年間スケジュールで進めることが出来ました。

2016年のからの6年間は第二世代の活動になると思います。小下沢のギャップ地や間伐跡地がなくなりこれまでの植樹祭中心とした活動から、板間の間伐を中心とした活動になりました。2019年の19号台風による林道の崩壊、2020年からのコロナによる活動停止と苦しい時期が続き現在に至っています。

森や会員の環境が変わってしまっている今、私たちは会の持続可能(Sustainable)な目標としても、コロナ後の新しい方針を考える必要があるのではないのでしょうか。これらの問題を解決するためには、高齢の同じようなメンバーではなく、思い切って若い(と言っても60歳、65歳あたり)の人たちが中心になって、進めることを考えたらいと私は思います。確かに森林管理署、都の森林課、日本山岳会に対してはそれなりの顔が必要でしょうが、実際に会を進めてゆくメンバーは、リーダーシップがあって、組織をまとめる力、努力が出来る人、多様な考えを受け入れる人であれば良いと思います。

リーダーシップとともに会員側にもメンバーシップが必要です。残念ですが最近では特に些細な言葉尻を捕まえてとやかく言う場面が目立ちます。ある程度執行幹事にまかせて、新しい発想で進めてもらう、うるさくとやかく言わない事が必要です。

アフターコロナはちょうどよいチャンスだと思います。停滞を打ち破って新たな活動を始めてほしいと願っています。『自由にして闊達な』創立当時の雰囲気を取り戻しましょう。



599ミュージアム 「高尾の森と生き物たち展」

小木曾裕子

コロナ禍で2020年春からことごとくイベントが中止となっていました。第5波が落ち着いた11月22日(月)から28日(日)まで7日間、久々に599ミュージアムで「高尾の森と生き物たち展」が開催されました。直前の20日には「八王子環境フェスティバル」がイーアス高尾で開催され、それに続く参加です。

このイベントは従来春休みに開催していたため、秋の開催ではどの位の方に来ていただけるか心配していました。ところが蓋を開けてみれば、天候にも恵まれ7日間で1802人もの来場者があり大盛況でした。土日祝日は、多くの家族連れで賑わいまし

た。アルコール消毒を徹底したパズルコーナーでは、お子様だけではなく親御さんも一緒に真剣に格闘されており、なんとも微笑ましい光景でした。平日は近隣の小中学校の課外授業の生徒たちが朝から多く来場し、動物映像や展示物の説明にも力が入りました。また、旅行会社のツアー参加者と思われる方々にもお越しいただき、599ミュージアムに来られた幅広い層の皆様「高尾の森づくりの会」をアピールすることができました。

会期中、受付をはじめ動物映像や各展示コーナーでの説明等、延べ43名の会員の皆さまに協力していただきました。

11月活動日記



京王親子森林体験スクール



京王親子森林体験：巣箱作り



京王親子森林体験：丸太切り

● 10月に引き続き京王親子森林体験スクールが親子16名(親8名、子供8名)の参加で実施され、イロハモミジなど40本の植樹と遅い紅葉を楽しんだ。ベースでは丸太切りや巣箱作りなどを体験し、楽しい一日を修了式で終えた。

● 都有林では、機械班の支援を受け植樹祭に向け伐倒木の処理が行われた。また、親子スクールの植樹木に動物からの食害を防ぐ「ツリーシェルター」を設置した。

● 218ろと小班では、一部選木を終え間伐が始まった。



都有林ツリーシェルター設置完了



C班



植栽地整備では機械班大活躍!



えーいッ! 3倍力だあ〜ッ!



ぼく、チルホール使えるんです



A班



B班

もくじ

森林・林業基本計画の改正……	02
高尾の森づくり20年を振り返って…	04
20周年おめでとうございます…	05
20周年記念箸づくり奮闘記……	05
幹事会報告……	05
コロナ後の新しい出発……	06
599ミュージアム……	06
11・12・1月活動日記……	07
東京都レンジャーです!……	10
八王子環境フェスティバル……	10
伊藤征さんを偲んで……	11
新入会員紹介……	11
事務局からのお知らせ……	12

12月活動日記

- 11月に引き続き、都府林の伐倒木処理では機械班が大活躍。植栽地整備は大きく進展した。
- 218 林班への作業道を塞ぐ倒木の処理や 03～07 年度植栽地の作業道整備を行い、作業の安全を確保した。
- 良い天気にも恵まれた上柚木公園整備。見留さんの休憩！「ピーッ！」でも 作業をやめない働きのも集団でした。



J パワーの精鋭たち



オレ達 働き者集団
(上柚木公園)



D 班



C 班



B 班



A 班



都府林整備

ポカポカ陽気で、
昼食タ〜イム



はい、次はここに足置
いてください
(急斜面で)



2022 1 月活動日記

- 年初めは恒例の山の神への安全祈願が行われた。
- 関東では定例作業日の2日前に降雪があり、雪景色の寒い中での初作業となったが、218林班での間伐が本格的に開始された。
- 東京都では1月に入り新型コロナの感染者が1日1000人単位で激増！後半の作業は残念ながら中止となった。



まずは山の神への安全祈願から



A 班



C 班



B 班



間伐初挑戦！

どうです？
受け口切れました



間伐はオレに
任せろッ！



こんにちは。 東京都レンジャーです！

東京都自然保護指導員（東京都レンジャー） 高尾地区 野村美和



東京都レンジャーは、多摩地域の高尾、奥多摩、御岳、檜原、小笠原地域の父島、母島の各地区に配属され、東京都が管理する自然公園をメインに巡視し、マナー普及、施設点検・補修、植物の盗掘監視等を行っています。高尾地区の管轄は、高尾山を主とした明治の森高尾国定公園、南高尾から陣場山を含む都立高尾陣場自然公園の他、都立滝山自然公園、都立多摩丘陵自然公園を、5名で担当しています。

高尾山は1年を通して多くの人で賑わいますが、訪れる人の目的も様々なため、求められることは多岐にわたります。管理側としては、利用促進と自然保護を同時に考えねばならず、相反する両者のバランスを探りながら一つ一つ問題解決を目指しています。結果が見えづらく、功を奏しているのか判断に迷うことが多いのですが、試行錯誤を繰り返し、

日々頑張っています。

長年苦慮しているのは植物の盗掘や登山道踏外しによる裸地化への対応です。他にも、トイレの故障や登山道の荒廃等、利用者の多さに起因すると思われる問題が多い事が高尾地区の特徴です。

悩みは多いのですが、つまりはやりがいのある仕事。良いこともたくさんあります。人が集まるといことは、いろんな人と出会う事もできます。それも特権。高尾の森づくりの会の皆さんとのつながりができたこともそうと言えます。

先日活動日にお邪魔し、じっくりお話を伺うことができました。貴重なお時間をありがとうございました。内容は違えど目指しているものには共通点があり、つながりを持たせていただくことができれば大変心強い、と勝手ながら感じていました。皆さんの熱心な姿勢は私たちにも刺激となります。山で見かけたら、是非、お声掛け下さい！

東京都レンジャーニュースでは、様々な情報を発信しています。
是非こちら↓もご覧ください。

<https://www.kankyo.metro.tokyo.lg.jp/naturepark/join/toranger/news.html>

八王子環境フェスティバルに参加して

佐々木正雄



2021年11月20日（土）、八王子市最大級のショッピングセンター「イース高尾」で「八王子の環境を見る・聞く・考える」をテーマとした「八王子環境フェスティバル」が開催され、そこに高尾の森づくりの会で出展させていただきました。

会場は大型スーパーマーケットを中心に多くの専門店、ファーストフード店が軒を連ねており、当日は秋晴れの好天下もあり、八王子市近郊からの大勢の買い物客で大賑わい！

私たち「高尾の森づくりの会」のブースでは、パネルと「高尾の森」通信を活用した、森づくりの会の活動を紹介。興味を示した人へ、森づくりの会への参加を呼び掛け、広報活動に努めました。

また、同時に木工作品の展示・販売、動物カメラ映像の紹介、横川コレクションの展示などを行い、親子連れ、ご

夫婦、学生さんなどなど、たくさんのお客様に来ていただきました。

木工作品は大好評で、バードコールはなんと完売！竹製花瓶、竹製バターナイフ、箸と桜材の箸置きも大人気でした。

横川コレクションでは青大将の抜け殻やキツネの毛皮は恐る恐る触って喜ぶ小学生で行列ができていたり、木製パズルは挑戦する子供達で一時はこのブースが順番待ち状態になるほどで。どれも大盛況！多くの人に高尾の森づくりの活動を知っていただけたと思います。

木工作品の展示販売会はコロナ禍のために過去2年間まったく無かったので、今回は本当に久々の活動でした。

さて、今年はどうなるのでしょうか。コロナウィルス君、そろそろ地球上の人類を懲らしめるのをやめて、2022年は“普通の年”に戻してください。どうか、なにとぞどうかよろしくお願いします。

伊藤征さんを 偲んで 守永日出夫



伊藤征さん パタゴニア・氷河湖のほとりで

伊藤征さんが昨年10月25日、脳梗塞でお亡くなりになりました。

9月末ごろから体調をくずして検査を続け、10月20日頃がんが診断され治療法など悩んでいた矢先、突然のご逝去だったようです。6月、会の新班編成をお伝えした時も、「新型コロナが収まるまで作業活動は控えているが、収まればまた参加します。」とメールをもらい、私にとってもまったく考えもしない突然の旅立ちでした。

征君（仲間内で複数の伊藤姓を区別するため、“せいくん”と名前と呼んでいた）の父君は林野庁にお勤めだった関係で、子供の時から林業に親しみがあったようです。森づくりの会へは、2012年から参加されていましたが、積極的に人へ話し掛たり、自己主張なさるような性格ではないため、班が違うとあまりご存じない方もいらっしゃるかもしれません。

私は、征君と60年近く前、大学のクラブでお会いしてからの付き合いです。60歳ぐらいから再開した仲間内の山歩き、旅行、飲み会などにはいつも参加する人付き合いの良い誠実な方でした。同じクラブの仲間でもあった会員たちと一緒に、「140年前の英国女流旅行家、イザベラ・バードの足跡をたどる東北・北海道の旅」や「インドシナ半島の最高峰ファン・シ・パン(3,143m)登山・トレッキング」、「雲南からラオスへ抜け各地の山岳少数民族を訪ねるツアー」、「パタゴニアの名峰鑑賞トレッキング」などに行きました。これらの長旅では各人にとって二つの失敗談や、おかしな逸話ができるものなのですが、征君が失敗した話など聞かないのが不思議です。落ち着いた慎重な性格は、少し早とちりや失敗が多い私たちには、ご一緒に安心できる存在でした。

少し早い旅立ちでしたが、どうか安らかにお休みください。



櫻井範子です

森づくりの様々なことを 学んでいくのが楽しみです

こんにちは。A班に加えていただきました櫻井範子です。

5年ほど前、初級登山教室に参加した折、先生方のお話から高尾の森づくりの会を知りました。山の中、森の中を歩くと本当に心地よく、毎回元気になります。一番身近な高尾の森に何かの形でかかわることができたら、思い切って研修に参加させていただきました。急斜面をスイスイ登って行かれるのに付いていくだけでドキドキ。その後、のこぎりの使い方を丁寧に教えていただきながら初めて木を切った時は本当にうれしく思いました。

知識も経験も豊かで温かく、何よりパワフルな皆さんにお会いし、森づくりをめぐる様々なことを学んでいくのが本当に楽しみです。今は仕事で参加できないこともあります、少しずつ慣れ、知識、技術を身に付けていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

新会員紹介

土屋洋之です



会で学んだことが 誰かの助けになることが できたら

出身は新潟県佐渡ヶ島。子どもの頃から蝶が好きで、今もカメラを片手に山や川、公園を散策しています。

コロナ禍ではトレイルランニングや登山を始め、大会運営や登山道整備のボランティア活動にも参加し始めました。トレイルランニングで小下沢林道を通った際、蝶の種類が多いことに感動。トレラン仲間から「高尾の森づくりの会」の存在を教えられて体験入会へ参加。

初めての林業体験では危険と隣合わせであることや、斜面で半日過ごすことの大変さを思い知りました。一方で、作業後に椎茸と焼酎をご馳走になったことも貴重な体験でした。帰り時にはメンバーの方同士での荷物間違いが発覚。走って追いかけてAさんからBさんの荷物を預かりBさんの元へ、BさんからAさんの荷物を預かり再度Aさんの元へ。トレイルランニングをしていて良かったと心から思いました。

高尾の森づくりの会で学んだことが、いつかまた別の場所、機会に誰かの助けになることができれば嬉しいなと思います。これからお世話になりますがよろしくお願いします。

野中義昭です



チェーンソーを使った 伐採や倒木処理が できるようになりたい

今年で34歳になります。インターネット広告の会社で仕事をしています。趣味としてハイキングやトレイルランニングといった山登りを行ってきました。好きな山のアクティビティへの恩返しを兼ねて登山道整備のボランティアに取り組みしましたが、思った以上に楽しく林業のボランティアにも参加するようになりました。林業ボランティアでは「とうきょう林業サポート隊」でお世話になりました。

「とうきょう林業サポート隊」では自宅から通いづらかった点もあり年2、3回の参加でしたが、本会では自宅から通いやすいので参加できる回数を増やします。また、チェーンソーを使った伐採や倒木処理ができるようになりたいです。

植樹祭に参加できるタイミングで入会できて光栄です。先輩方のこれまでの尽力があってこそその活動だと思うので、良いところ取りにならないよう今度は私が次の入会者へ繋げられるように、がんばります！

活動記録

11/7	京王親子森林体験スクール (親子参加16名、会員、他34名)
11/13	定例作業 (65名)
11/17	上柚木公園作業 (7名)
11/13~14	八王子環境フェスティバル (来場者320名)
11/22~28	599ミュージアム展示会 (来場者1,802名、会員 延べ43名)
11/27	チェーンソー実践講習・チェーンソー特別教育補講 (7名)
11/28	都有林プロジェクト (6名)
12/11	定例作業 (78名)
12/25	上柚木公園作業 (7名)
12/26	都有林プロジェクト (9名)
1/8	定例作業 (58名)
1/22	チェーンソー作業実践講習 (3名)
1/23	都有林プロジェクト (新型コロナのため中止)
2/5	森の研修会 (新型コロナのため延期)
2/12	定例作業 (新型コロナのため中止)
2/20	20周年を祝う会 (新型コロナのため中止)

2022年度年会費・保険料納入のお願い

新年度の年会費・保険料の納入をお願いします。

1. 同封の「払込取扱票」で払込みの場合

ゆうちょ通帳・カード扱いの場合は、払込料金は会が負担(無料)ですが、現金扱いの場合は2022年1月より手数料¥110が払込者負担になりましたのでご了承ください。

*口座記号番号 00160-3-688239

*加入者名 日本山岳会「高尾の森づくりの会」

2. 他の金融機関からの振込の場合

*銀行名 ゆうちょ銀行019(ゼロイチキュー)店

*当座預金 口座番号 0688239

*口座名 日本山岳会「高尾の森づくりの会」

3. 納入期日 3月22日(金)

3月末に一括ボランティア保険に加入の手続きを行う関係上、期日までの納入にご協力をお願い致します。

4. 納入金額

	年会費	ボランティア保険料	合計
賛助会員	3,000円	なし	3,000円
一般会員	3,000円	500円	3,500円
家族会員	2,000円	500円	2,500円
学生	1,000円	500円	1,500円

注1: 他の団体等でボランティア保険に加入する場合は、その団体名等を振込票に記入して連絡ください。重複して加入する必要はありません。

注2: 従前より機械作業登録をしている方で、今後この登録を継続しない方も、同様にその旨を振込票に記入してお知らせください。

活動実績と予定

2/26	チェーンソー作業実践講習
2/27	都有林プロジェクト
3/12	定例作業
3/27	都有林プロジェクト
3/27~4/3	599ミュージアム展示会
4/9	定例作業(植樹祭)
4/17	京王親子森林体験スクール
4/24	都有林プロジェクト

会員登録情報確認のお願い

2022年版会員名簿を6月に会員限定で配布致します。

記載内容は、氏名、住所、電話番号、メールアドレスを予定しています。

登録情報に変更のある方、記載制限ご希望(住所、電話は未記載など)の方は、5月末までに事務局 仁藤あて

nitohmasaosirotori33@gmail.com

連絡をお願い致します。

会員動向

入会: ようこそ

土屋洋之さん、櫻井範子さん

会報誌の印刷はコニカミノルタさんにご支援いただいています。

編集後記



松川さんから編集委員を引き継ぐことになりましたA班の大島徹です。高尾の森づくりの会の初参加が2009年、すでに10年以上経過し長いこと居る割に定例作業以外ほとんど何も知らず、また編集という作業は初めてで、重要な役目を受け悩ましい日々を送りようやく84号の発行に漕ぎ着けることができました。今後、突然原稿のお願いをするかもしれませんが、嫌がらずに快く受けていただけると助かります。また、原稿や写真など大募集! 皆様のご協力をよろしくお願い致します。(大島徹)

